

幼稚園

平成25年度

# 教育研究員研究報告書

幼稚園

東京都教育委員会

# 目 次

I 研究主題設定の理由	1
II 研究の視点	1
III 研究仮説	1
IV 研究方法	2
V 研究内容	
1 目指す幼児像の定義	2
2 葛藤体験とは	2
3 葛藤体験を乗り越えるために	2
4 「主張」「調整」「折り合い」の関係性のイメージ図	3
5 「主張」「調整」「折り合い」の過程と教師の援助	3
6 検証保育	8
7 検証保育後の幼児の姿	23
VI 研究のまとめ	24
VII 今後の課題	24

## 研究主題

# 自信をもって思いを伝えられる幼児を育てる ～ 葛藤体験を通して ～

## I 研究主題設定の理由

多くの幼児にとって、幼稚園生活は家庭から離れて同年代の幼児と一緒に過ごす初めての集団生活である。入園当初の幼児は、一方的に自分の思いを相手に伝えようとすることが多いが、園生活の様々な出来事の中で、思いが相手に伝わらずに困ったり、うまく伝わったことで遊びがより楽しくなったりするなどの体験を積み重ねて、少しずつ相手の思いを感じられるようになっていく。

教師は園生活において、幼稚園教育要領「第2章 ねらい及び内容 人間関係 2 内容(6)」にあるように、幼児が「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く」ことができるように保育を行っている。しかし、幼稚園修了後の小学生の姿に目を向けてみると、「自信をもって自分の思いを発言できない」「相手によって自己主張することを控える」などの姿が見られる。これらの姿は、幼稚園において「自分の思ったことを相手に伝える」力が十分身に付いていなかったものと捉えることができる。このことは、教師が「自分の思ったことを相手に伝える」力よりも「相手の思っていることに気付く」力を育てることを重視し過ぎていることが一因ではないかと考えた。

幼児が自信をもって思いを伝えられるようにするためには、幼稚園における友達との関わりの中で、自分の思いとは違う相手の思いを知り、自分の思いを抑えようとする気持ちと自分の思いを通したい気持ちが揺れ動く葛藤体験の中で、自己主張したり、自分の思いを調整したり、相手と折り合いを付けたりするなどの経験を積み重ね、乗り越えることが重要であると考えた。そこで、葛藤体験を乗り越える過程における幼児に必要な経験や、教師の援助について探りたいと考え、本研究主題を設定した。

## II 研究の視点

「自信をもって思いを伝えられる幼児」を、葛藤体験を乗り越えることを通して育てるために、以下の3点について研究した。

- ・ 葛藤体験を乗り越える過程には、「主張」「調整」「折り合い」の3点があると考え、各々について幼児に必要な経験や教師の援助を明らかにする。また、3点の関係性を導き出す。
- ・ 幼児が葛藤体験を乗り越えることを、遊びや生活の楽しさを味わうことにつなげるための教師の援助を探る。
- ・ 幼児が葛藤体験を乗り越えることを経て、遊びや生活の楽しさを味わうことを、「自信をもって自分の思いを伝えられること」につなげるための教師の援助を探る。

## III 研究仮説

友達との関わりの中で葛藤体験を乗り越え、遊びや生活の楽しさを味わう経験を積み重ねることで、自信をもって思いを伝えられる幼児が育つ。

#### IV 研究方法

- ・ 先行研究及び事例研究を通して、幼児が友達との関わりにおいて葛藤体験を乗り越える過程を捉え、幼児に必要な経験や教師の援助を明らかにする。
- ・ 検証保育を通して、幼児が葛藤体験を乗り越えることを遊びや生活の楽しさを感じることにつなげる援助、遊びや生活の楽しさを感じ、そのことにより自信をもって自分の思いを伝えることにつなげる援助を明らかにする。

#### V 研究内容

##### 1 目指す幼児像の定義

本研究において、私たちが目指す幼児像である「自信をもって思いを伝えられる幼児」を次のように共通理解した。

「自信をもって思いを伝えられる幼児」とは、どのような場面でも、そのときの状況や相手に応じた方法で、誰に対しても自分の思いを伝えられる幼児のことである。

そして本研究では、友達と関わる中で葛藤体験を乗り越えることが遊びや生活の楽しさを味わうことにつながり、その経験を積み重ねることで、「自信をもって思いを伝えられる幼児」が育つと考えた。

##### 2 「葛藤体験」とは

本研究で考える「葛藤体験」とは、自分の思いとは違う相手の思いを知り、自分の思いを抑えようとする気持ちと自分の思いを通したい気持ちが揺れ動くことであると考えた。「気持ちの揺れ動き」にはもどかしさを味わったり、選択や判断に迷ったりすることも含まれている。

##### 3 「葛藤体験」を乗り越えるために

幼児が「葛藤体験」を乗り越える過程では、常に快の感情だけでなく、不快な思いを伴う。成功体験を援助するだけでなく、幼児にとってうまくいかなかった経験や不快な感情を、教師がいかに価値のある経験に導くかが大切である。そして、その結果として友達との遊びや生活がより楽しいものとなることを知ったり、解決できた喜びや充実感を味わったりできることが必要である。

私たちは、「葛藤体験」を乗り越える過程には「主張」「調整」「折り合い」の3つの要素があると考えた。基盤には教師との信頼関係、安心感があるということを踏まえた上で、それぞれ以下のように捉えた。

**主張**とは・・・

出来事に対して自分なりの思いをもち、自覚した上で表出し、相手に自分の思いを伝えることである。

**調整**とは・・・

相手の様子に関心をもち、思いに気付いたり、話を聞いたりして、自分と異なる思いに対して自分の中で考え、解決しようとする事である。

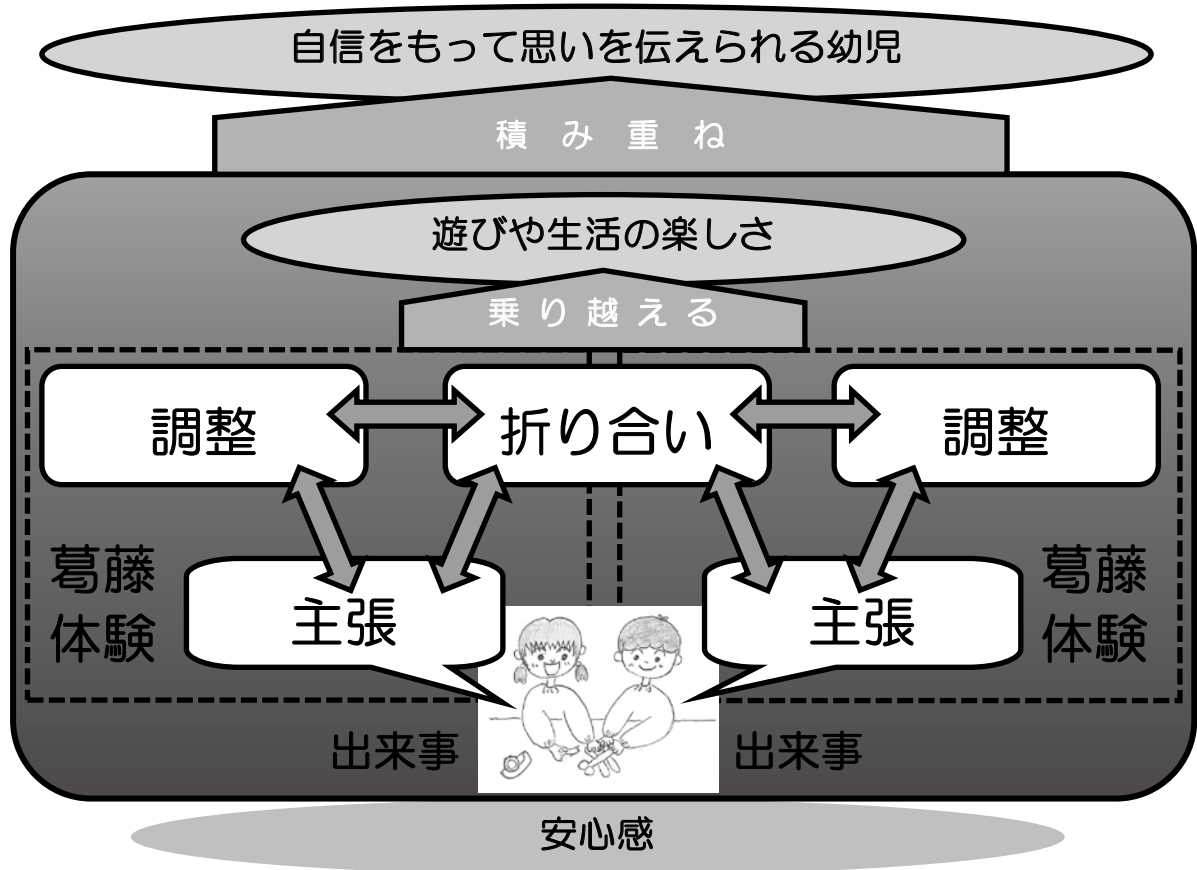
**折り合い**とは・・・

他者と関わる中で、相手に働き掛け、話し合い、納得できるよう互いに同意したり譲り合ったりして解決策を見付けることである。

#### 4 「主張」「調整」「折り合い」の関係性のイメージ図

葛藤体験を乗り越える過程にある「主張」「調整」「折り合い」には図1のような関係性があると考えた。

図1 葛藤体験を乗り越える過程における「主張」「調整」「折り合い」の関係図



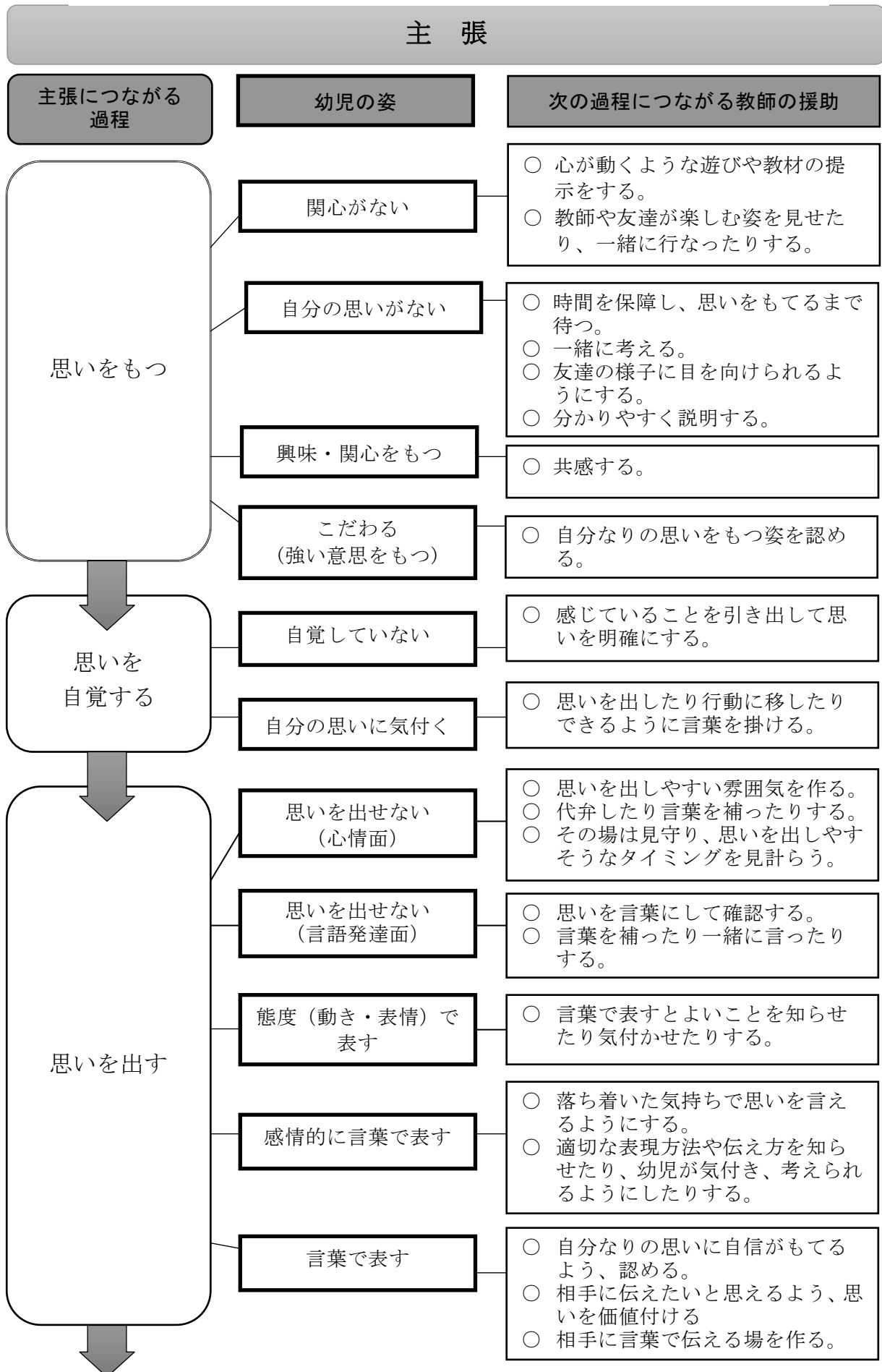
#### 5 「主張」「調整」「折り合い」の過程と教師の援助

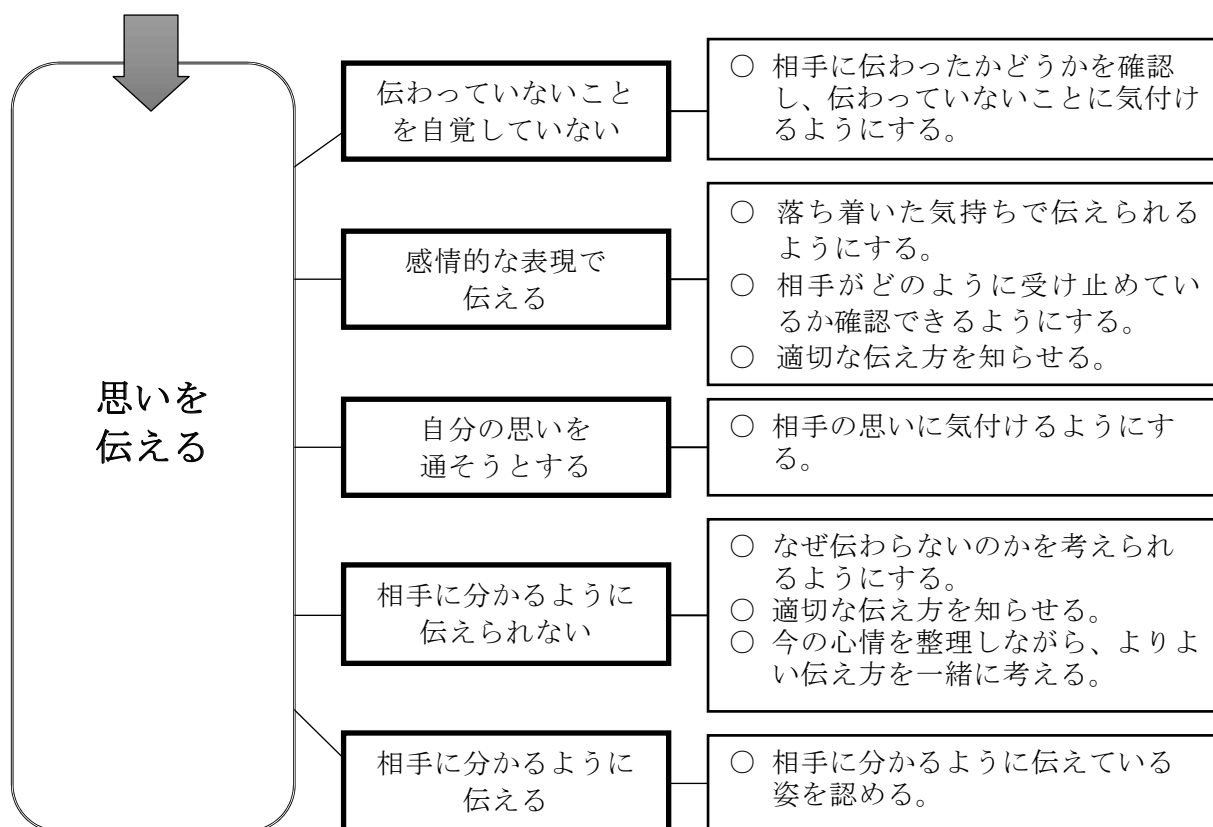
葛藤体験を乗り越える過程にある「主張」「調整」「折り合い」において、幼児に必要な経験と教師の援助を明らかにすることとした。

「主張」「調整」「折り合い」のそれぞれについて、幼児に必要な経験をおおまかな発達の道筋に整理し、「主張につながる過程」「調整につながる過程」「折り合いにつながる過程」として表した。また、その過程で実際に見られる姿を「幼児の姿」として挙げ、その姿に対する指導を「次の過程につながる教師の援助」として示した。個人の発達の様子やそのときの状況によって、道筋や教師の援助が変わることもあると考えるが、おおよその道筋・教師の援助として、私たちは捉えている。

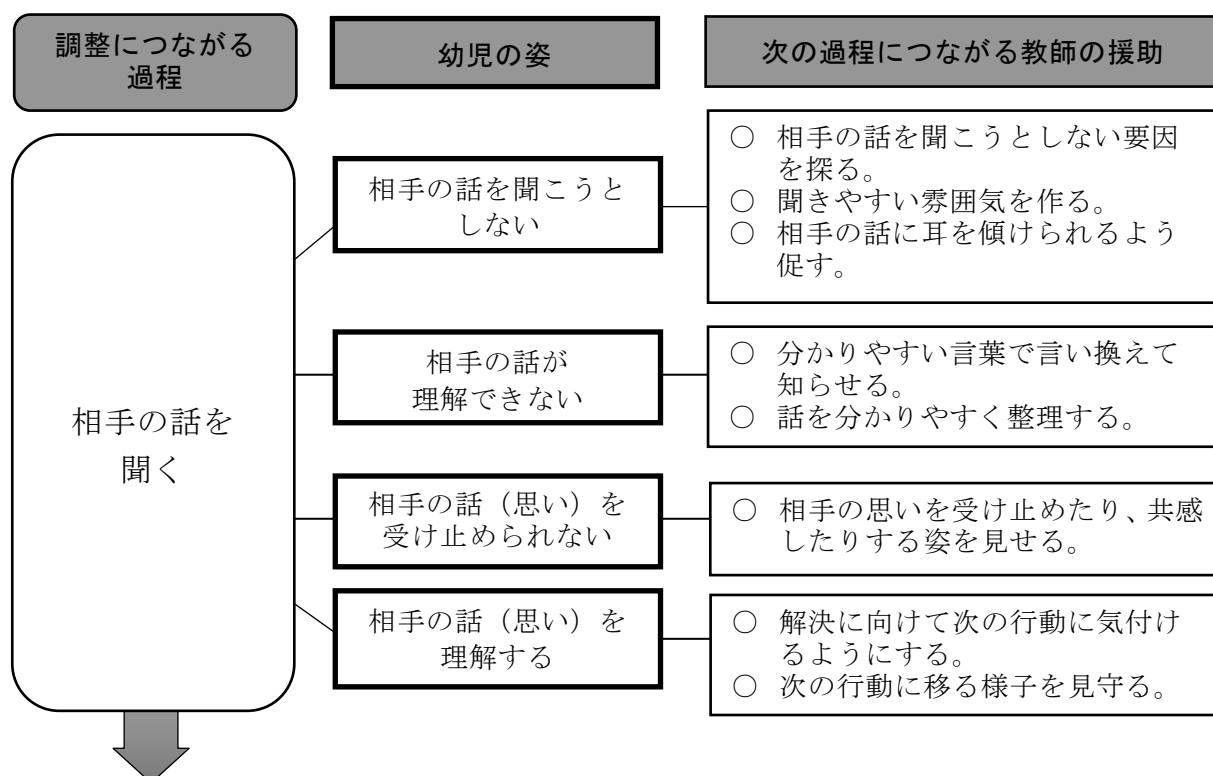
なお、「教師の援助」において、「受け止める」「寄り添う」という援助は葛藤体験を乗り越える上で基盤となる安心感と関わっており、全ての援助において前提となるので表の中には記さない。

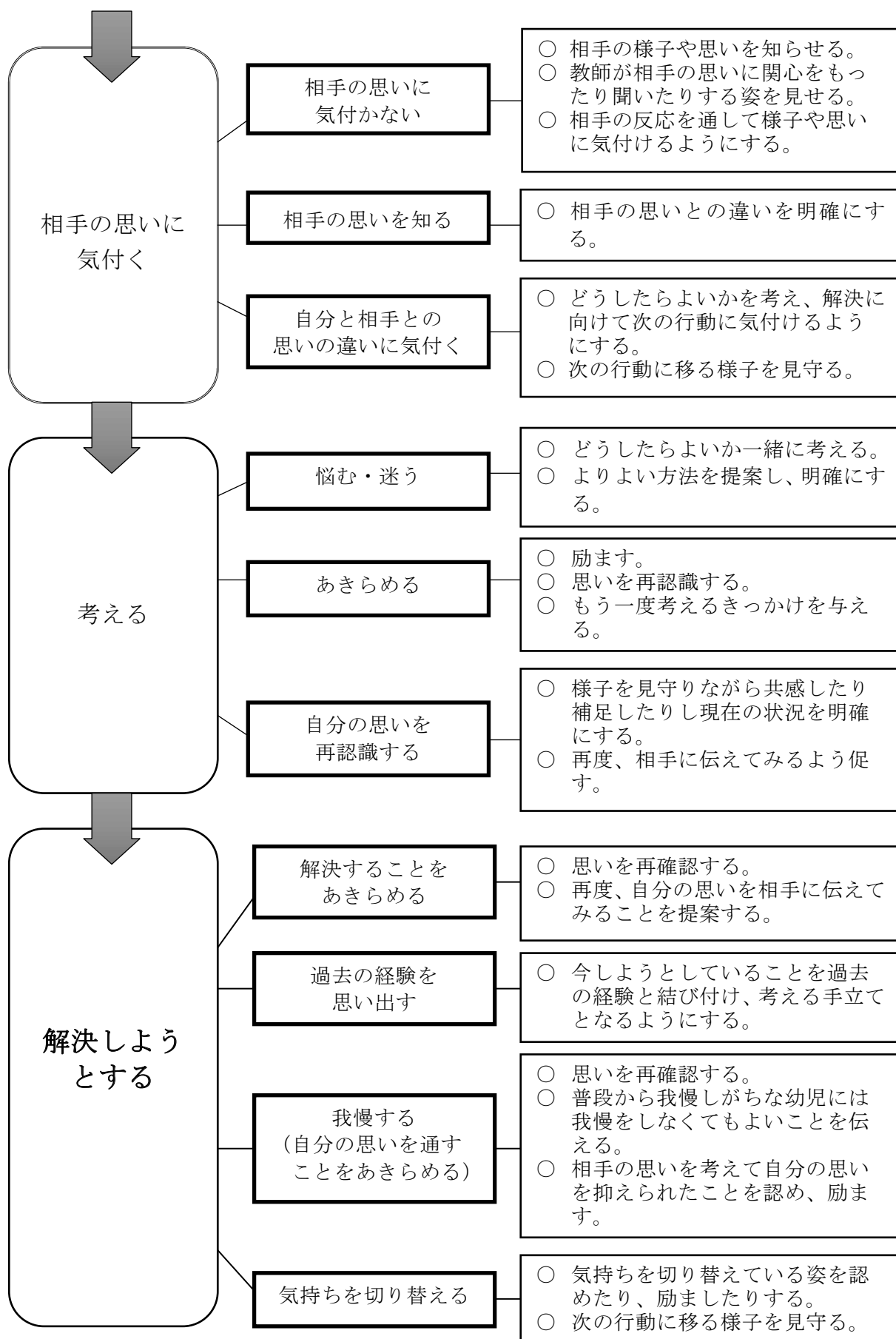
図2 「主張につながる過程」「調整につながる過程」「折り合いにつながる過程」と教師の援助の流れ





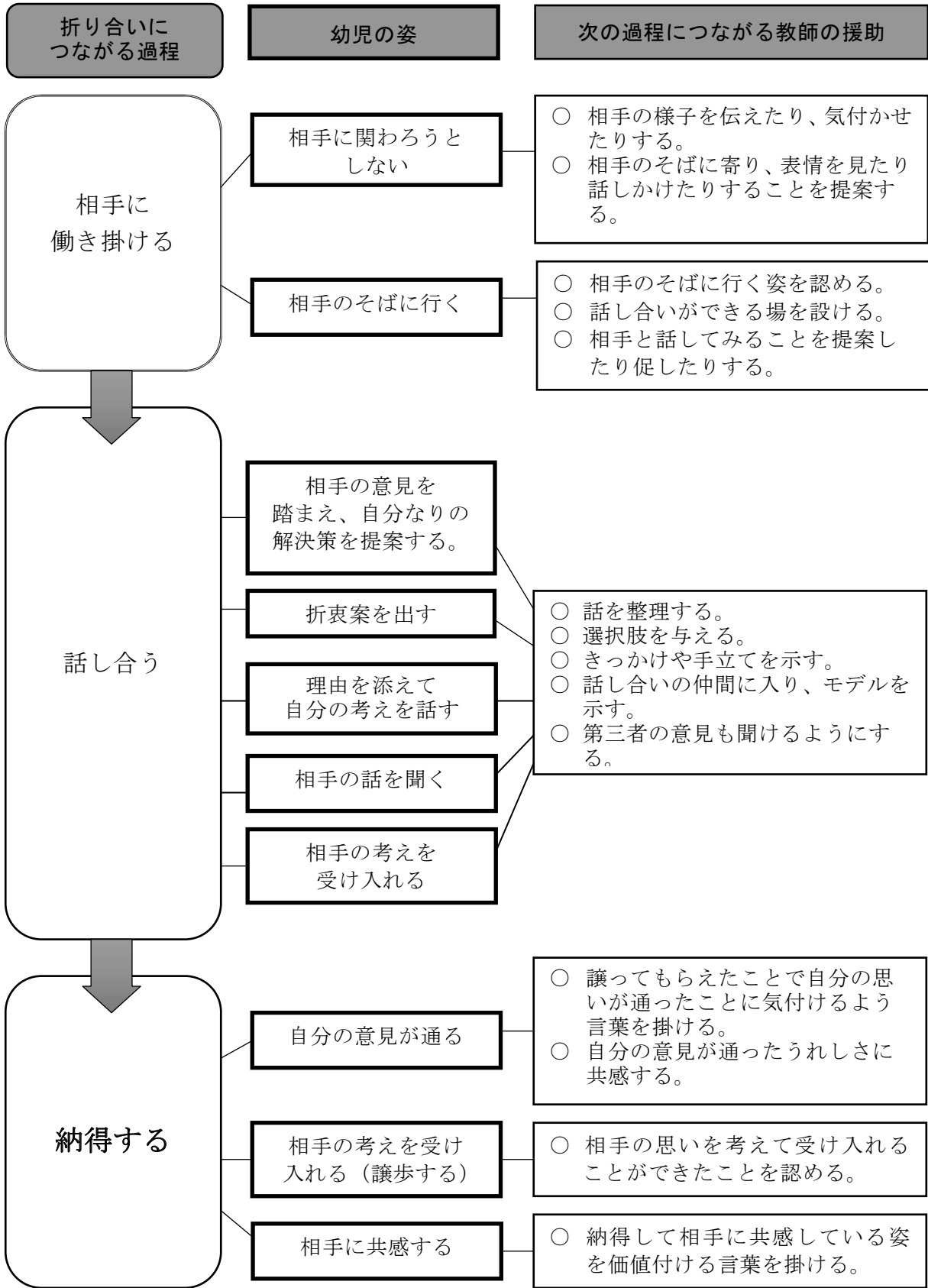
**調 整**







# 折 り 合 い



研究仮説を基に、以下のように検証保育を設定した。

意図的に「主張」「調整」「折り合い」の場面を生み出せるよう、学級全体の活動において製作活動を設定した。前出の図2を基に援助し、葛藤体験を乗り越えるために幼児に必要な経験と教師の援助を明らかにした。同時に、葛藤体験を乗り越えて遊びや生活の楽しさを感じることに繋げる援助、遊びや生活の楽しさを感じ、そのことにより自信をもって自分の思いを伝えることに繋げる援助について探ることとした。

幼児一人一人の変容が分かるよう、4月からの事例検討で対象となっていた幼児（グループ）を抽出し、観察することとした。

(1) 対象グループ内の幼児の実態に対する教師の願い

- b児：自分の思いを主張することが多いので、友達の違いや話に耳を傾け、「調整」しながら、「折り合い」を付けられるようになってほしい。
- c児：調整役になることが多く、困っている幼児に寄り添えるが自信がもてないので、自分の思いを表出し、「主張」できるようになってほしい。
- d児：自分の思いを一方向的に主張することが多いので、友達の違いに気付き、「調整」しながら「主張」できるようになってほしい。
- e児：友達の様子を気にせず自分の思いを出すので、自分の思いを相手に伝えるように「主張」し、「調整」できるようになってほしい。

(2) 当日の指導案（抜粋）

<p><b>3 本時のねらい及び内容</b>      &lt;〇ねらい ・内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動の中で、自分の思いや考えを自分なりの言葉で伝えようとする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の思いをもつ。</li> <li>・ 自分の思いを自分なりに伝えようとする。</li> </ul> </li> <li>○ 自分の考えを話したり、友達の話の聞いたりしながら、友達と一緒に取り組む楽しさを感じる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えを言葉にして表現する。</li> <li>・ 友達の話の聞いて、相手の考えを受け止めようとする。</li> <li>・ 自分とは違う考えがあることを知り、受け入れようとする。</li> </ul> </li> <li>○ グループの友達と相談しながら製作活動に取り組み、一つのものを作り上げる楽しさや満足感を味わう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループでトンボの製作をする。</li> <li>・ 友達と相談しながら、製作に必要な材料を選ぶ。</li> <li>・ 役割分担をしながら製作活動に取り組む。</li> <li>・ 学級全体の場で、楽しかったことや、頑張ったこと、工夫したことなどを伝え合い、自分や友達の様子及び学級での取組を振り返る。</li> </ul> </li> </ul>
--

#### 4 本時の流れ

時間	活動の流れ	環境の構成・教師の援助
13:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ トンボの製作を行う。 (グループ活動)</li> <li>・ グループに分かれて座る。</li> <li>・ <b>材料を決める。【設定課題1】</b></li> <li>*体の色を選ぶ。(赤・青・黄・緑)</li> <li>*羽の素材を選ぶ。(クリアファイル・スチレンボード・エアパッキン・ポリエチレンシート・クリアポケット)</li> <li>*目(めがね)の色を選ぶ。</li> <li>・ <b>トンボを作る。【設定課題2】</b></li> <li>・ 1匹作り終わったグループは、2匹目を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児同士が相談しやすいように、決める内容とそれぞれの選択肢を書いた紙を用意し、黒板に掲示しておく。</li> <li>○ 相談しながら活動を進めているか、各グループの様子を捉え、必要に応じて援助をしていく。(詳しくは、本時の展開を参照)</li> <li>○ 思いがぶつかり合っている場面では、一人一人の思いを引き出し、互いに折り合いをつけながら進めていけるよう援助する。</li> <li>○ 個々が役割を意識してどのように動いているかを見ながら、一人一人が自分の考えを出したり、友達の考えを聞いたりする姿勢を認めていく。</li> <li>○ それぞれのグループが工夫したところを認め合ったり、どのように活動を進めていたかを振り返ったりする時間を設ける。(詳しくは、「本時の展開」を参照)</li> </ul>
13:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 片付けて、<b>本時の活動を振り返る。【設定課題3】</b></li> </ul>	
13:50		
14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 降園準備をする。</li> <li>○ 学級全体で集まる。</li> </ul>	
14:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明日の話を聞く。</li> <li>○ 降園する。</li> </ul>	

#### 5 本時の展開

<b>【設定課題1】材料を決める</b>
<p>《予想される幼児の姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の好きな色や素材をそれぞれに出し合う。自分の思いを出せる幼児が、自分の好きな色や素材を主張し、材料決めを進めようとする。自分の思いが出せない幼児は、その材料で製作を進めようとする。</li> <li>・ それぞれの思いがまとまらず、ぶつかり合いになる。</li> </ul>
<p>《教師の願い》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの幼児も自分の好きな色や素材を伝えようとし、納得した材料で製作に取り組んでほしい。</li> <li>・ 思いがぶつかり合う場面では、相手の思いに気付き、それを受け止めようとしたり、自分の思いを伝えたりしながら、折り合いをつけてほしい。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p>

《必要な経験》 **主張・調整・折り合い**

↓

《図2に基づいた教師の援助》

『主張』が必要な場面では

- ・ 自分の好きな色や素材を、自分で言葉にして表現できるよう投げ掛ける。
- ・ 自分の思いを伝えられない幼児には、教師と一緒に言うなど、安心感をもたせるようにする。また、思いを自分なりの言葉で表出できるように言葉を掛ける。
- ・ 感情的に伝えている幼児がいる場合には、まず気持ちを落ち着かせ、どのように伝えれば相手に伝わるか一緒に考える。
- ・ 自分で言えた場合は、そのことにより友達が聞いてくれたり、関心をもってくれたりしたうれしさを言葉に表して共感する。自分で言えなかった場合は、次回は自分の思いを言葉にして出せるように励ます。

『調整・折り合い』が必要な場面では

- ・ 友達の思いを聞こうとしたり関心をもったりした姿を認める。
- ・ 友達の思いについて考えられるように声を掛ける。
- ・ 相手の思いを受け入れられるように、耳を傾けるよう促したり、整理して代弁したりする。
- ・ それぞれの思いを確認し、明確にすることで、自分の思いと相手の思いの違いに気付けるようにする。
- ・ 主張し合っている幼児だけでなく、他の幼児の思いも引き出し、グループ全員の思いに気付けるようにする。
- ・ 落ち着いて話し合えるよう、幼児を座らせるなど、環境を整える。
- ・ 全員が納得して次の活動に進めるよう、一緒に解決策を考えたり、きっかけを与えたりする。

**【設定課題2】トンボを作る**

《予想される幼児の姿》

- ・ グループで相談して決めたことが共通認識されておらず、製作が中断してしまう。
- ・ 自分たちで役割を決め、取り組もうとする。やりたい作業が同じ幼児がおり、思いがぶつかり合うことがある。
- ・ 役割を決めずに、一人で製作を進めてしまう幼児がいる。同じグループの幼児は一緒に進めることを伝えようとするが、受け入れられず、思いがぶつかり合うことがある。

《教師の願い》

- ・ 自分たちで役割を決め、声を掛け合いながらトンボの製作を進めてほしい。
- ・ 友達と一緒に製作をすることを楽しみながら取り組んでほしい。

↓

《必要な経験》 **主張・調整・折り合い**

↓

《図2に基づいた教師の援助》

『主張』が必要な場面では

- ・ 自分の思いを言葉で伝えられている姿を認める。
- ・ 自分の思いを伝えられない幼児には、教師と一緒に言うなど、安心感をもたせるようにする。また、思いを自分なりの言葉で表出できるように言葉を掛ける。
- ・ 納得していない表情の幼児には、その幼児の思いを引き出せるような言葉を掛け、相手に伝えられるように促す。
- ・ 感情的に伝えている幼児がいる場合には、まず気持ちを落ち着かせ、どのように伝えれば相手に伝わるか一緒に考える。
- ・ 自分で言えた場合は、そのことにより友達が聞いてくれたり、関心をもってくれたりしたうれしさを言葉に表して共感する。自分で言えなかった場合は、次回は自分の思いを言葉にして出せるように励ます。

『調整・折り合い』が必要な場面では

- ・ 一人一人が自分なりに取り組もうとする姿を認める。
- ・ 材料を決めたときのことを思い出し、役割を決める際の参考となるようにする。例えば、材料を相談した際の決め方（譲り合う、じゃんけんなど）を思い出し、役割を決めるときにも、そのような決め方があることに気付けるようにする。
- ・ みんなで協力しながら取り組もうとする幼児の姿を受け止め、互いの思いに気付けるようにする。
- ・ 役割を決め、声を掛け合いながら取り組む姿を認める。
- ・ 自分の思いを伝えられず、我慢している幼児には、本当はどうしたかったのかなどを尋ね、その幼児の思いを再確認し、一人一人が納得して作業が進められるようにする。
- ・ 一人で作業を進めている幼児には、周りの幼児の様子や表情に目を向けさせ、相手の思いに気付けるようにする。

### 【設定課題3】本時の活動を振り返る

#### 《予想される幼児の姿》

- ・ グループの友達と一緒に製作をして楽しかったことや大変だったことを話す。
- ・ 中には、なかなか自分からその思いをみんなの前で話そうとはしない幼児もいるが、教師に聞かれると、思いを受け入れてもらったうれしさなどを話す。
- ・ 自分の話をしたいという思いが強く、友達の話を聞こうとしなかったり、友達が話しているときに、話し出してしまったりする。

#### 《教師の願い》

- ・ 活動を振り返る中で、友達と一緒に活動を進めた楽しさや、一つのものを作り上げた満足感を味わってほしい。
- ・ 折り合いをつけて活動を進めることができた姿を認め、自分の思いを伝えたことを価値付けたい。

↓

#### 《必要な経験》 **主張**

↓

#### 《図2に基づいた教師の援助》

- ・ 友達に伝わりやすい言葉や伝え方を知らせたり、自分で気付けるようにしたりする。
- ・ みんなの前で自分の思いを伝えた姿を認める。
- ・ 思いを出したことで、自分のしたいことが実現できたうれしさに共感し、思いを出すことの大切さに気付けるようにする。
- ・ 友達の意見を受け入れた幼児の姿を認める。
- ・ 折り合いをつけながら取り組んだ姿を具体的に認め、考えや行動のよさを意識させる。
- ・ 折り合いをつけて活動を進められた姿を認め、自分の思いを伝えたことを価値付けるようにする。
- ・ 自分の話をしたいという思いが強い幼児は、その思いを受け止め、順番で話を聞くことなどを伝え、友達の話に耳を傾けられるようにする。
- ・ 本時の活動で自分の思うように製作ができなかったり、我慢したりした幼児がいることを伝え、どのような思いで譲歩したのかなどを聞くことで、その幼児の思いに気付けるようにする。

### (3) 対象グループの当日の姿（抜粋）

吹き出し部分は、「主張」「調整」「折り合い」の様子が顕著に表れた場面であり、P14～P22でそれぞれを詳細に記述し検証している。

幼児の姿	教師の援助
<p style="text-align: center;">折り合い P20</p> <p>&lt;何から決めるか、目の色決め・色塗り&gt;</p> <p>グループごとに座り、教師の話聞く。1学期にも同じグループでの製作活動を経験しているので、そのことを思い出しながら話を聞いている。グループごとに話し合いを始める。対象のAグループでは、なかなか意見がまとまらず、先に進まない。自分の意見を普段あまり主張しないc児は、何とか話し合いを進めようとしているが、なかなか思うように進まない。教師の援助もあり、目の色から決めることにし、緑色に決まった。目の色塗りでは、e児が自分勝手に進めようとする。c児は、教師の問いかけに、「やりたいけど、我慢するしかない。」という言葉で自分の思いを伝える。他の幼児も意見を出し、目の色は順番で塗ることに決まる。色塗りでは、順番に進めるが、c児にはなかなかペンが回ってこない。そのことを友達に伝えられず、c児は少し悲しそうな表情になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合いが進んでいない状況を見て、声を掛ける。みんなが行うことを理解し、話し合いに参加していることを確認する。</li> <li>○ この段階では、c児は自分の思いはあるが、まだ出せていないことを読み取り、他の場面で出せるようにしようとする。</li> <li>○ c児の思いを引き出すために、「本当はどうしたい？」と声を掛ける。</li> <li>○ みんなが納得して次の作業に進めるよう、みんなの意見を整理して伝え、話し合いが進むようにする。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">主張 1 P14</p> <p>&lt;体の色を決める&gt;</p> <p>目の色が塗り終わり、今度は体の色決めをすることになった。b児、d児、e児は3人で色を決め、材料を取りに行こうとする。教師の言葉掛けに、初めは3人が決めた色でいいと言っていたc児だったが、何度か教師とのやりとりを繰り返すうちに、表情や言い方が変わってくる。そして、本当は青がいいことを伝える。c児の思いを聞き、体の色は青色に決まった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ c児の明らかに納得していない表情を見て、c児には自分の思いがあると推察する。この場面でc児の思いを引き出したいと考える。</li> <li>○ 繰り返しやりとりをすることで、本当の思いを引き出せるようにする。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">調整 P17</p> <p>&lt;羽の素材決め&gt;</p> <p>教師が机の上に置いた素材を触りながら、羽の素材を決めようとする。b児、c児、d児はポケットファイル、e児はポリエチレンシートと意見が分かれ、どちらにするか決まらない。e児は自分の希望を通そうとするが、教師に声を掛けられ、なぜポリエチレンシートにしたいのか、自分なりの言葉で友達に話す。他の3名も、なぜポケットファイルにしたいのかをe児に話す。しかし、友達の話聞いてもe児は自分の意見を譲らず、ポリエチレンシートがよいと主張し続ける。b児とc児はe児</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 机の上に素材を置き、話し合う内容が明確になるようにする。</li> <li>○ 話し合いが進んでいない様子を見て、援助に入る。</li> <li>○ e児が自分の希望を通そうとしているので、友達の思いにも気付けるよう、友達の意見を聞くよう促したり、友達の表情に</li> </ul>

に、ポリエチレンシートは傷がついてしまうから嫌だということを伝える。友達の思いを聞き、e児は「やっぱりこっち（ポケットファイル）にしてあげる。」と言う。教師の「我慢してこれでいいの？後悔しない？」という言葉掛けに、トンボの体の棒を覗き込み、ふざけて見せる。教師がe児が我慢した気持ちを代弁したことで、e児も納得し、次の作業に進む。その後、型紙を使い羽を切り、トンボの体に羽と目を付け、トンボを完成させる。

<活動の振り返り>

主張—2 P16

本時の活動を思い出し、話すことを考えている。初めに指名されたc児は、「目の色を決めたりするのが大変だった。」と、みんなの前で伝える。体の色を決めるの場面で、c児が自分の思いを伝え、思いを実現できたことを教師が話すと、c児はそのときのことを振り返り、「うれしかった。」と話す。羽の素材決めでe児が我慢したことを教師が伝えると、e児は少し照れながらもうれしそうな表情をした。

気付けるように援助したりする。

○ e児の態度や表情に現れている、我慢した思いを、具体的に『『よくない』という顔をしていますよ。』などの言葉で伝え、e児の思いが友達にも伝わるようにする。また、e児が自分なりに調整しようとしている姿を受け止め、e児の姿を周囲の幼児が気付けるようにする。

○ 具体例を挙げることで、話す内容が明確になるようにする。

○ 自分の素直な思いを言えるよう、初めにc児を指名する。

○ c児が自分の思いを主張し、その思いが実現できたこと、e児が我慢した時の思いを振り返ることで、その経験を価値あるものにできるようにした。

#### (4) 検証

幼児の変容が顕著に表れた「主張」「調整」「折り合い」の場面を、それぞれに分析、考察した。(※ 分析、考察の中の                      は、図2に基づいた援助である。)

ア 主張—1

【設定課題1】材料(体の色)を決める

幼児の姿	教師の動き・援助
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目の色を塗り終わり、体に取り掛かる。</li> <li>・ e児「緑じゃないの？」</li> <li>・ d児「それじゃ目と一緒だよ。」</li> <li>・ e児「赤！」</li> <li>・ b児、d児、e児3人で色を決め、波段ボールを取りに行く。</li> <li>・ c児は不満そうに座って見ている。</li>   <li>・ c「赤にする。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「c児さんは何と言っていましたか。」と3人に投げ掛ける。</li>   <li>・ 「赤でいいのですか。」とc児に問い</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・ c 児、うなづく。</li> <li>・ c 児「赤でもいい。」</li> <li>・ c 児「青。」</li> <li>・ e 児「じゃあ、青にしよう。」と言って、青の波段ボールを取りに行く。</li> <li>・ d 児「ちょっと待って。c 児ちゃんは青がいいの？」</li> <li>・ b 児「c 児ちゃんは青でいいの？」</li> <li>・ c 児「青。」</li> <li>・ d 児「じゃあ、青にしよう。」</li> <li>b 児、d 児、e 児が青の波段ボールを取りに行く。</li> <li>・ e 児、波段ボールの匂いをかぐ。</li> <li>・ b 児「それじゃ協力できないよ。」</li> <li>・ e 児は波段ボールを丸めると「はい。」と d 児の方に向け、セロハンテープを貼ってもらう。</li> <li>・ d 児「次はc 児ちゃんね。」と言って、セロハンテープを切り c 児に渡す。</li> </ul>	<p>掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「本当にいいのですか。『よくない』という顔をしていますよ。」</li> <li>・ 「“でも”ね…。言ってもいいのですよ。本当は何色がいいのですか。」</li> <li>・ e 児を座らせる。</li> <li>・ 「すぐ決めるのではなくて、みんなで話して決めましょう。」</li> </ul>
---	--

【分析①（幼児）】

- ・ c 児は自分の思いがなかなか出せず、他の幼児が決めた色で製作を進めようとしている。しかし、本当は他の色が良いという思いが、表情や態度に現れている。教師の問い掛けに対し、「赤にする。」と初めは答えるが、「赤でもいい。」と語尾が変化していくことから、c 児の心情が読み取れる。教師の「言っているのですよ。」という言葉掛けが、**思いを出しやすい雰囲気**につながり、自分の思いを言葉で表すことにつながっている。

【分析②（教師の援助）】

- ・ 他の幼児が色を決め、作業を進めようとする姿を不満気な表情で見ていた c 児の姿から、教師は c 児は自分の希望する色があることを推察し、自分の思いを言葉で表せるよう援助している。また、c 児の表情から、「本当は赤ではない色がいい」という思いを推察し、c 児の思いをより明確にするために、「赤がいいのですか。」という言葉掛けでは

なく、「赤でいいのですか。」という言葉掛けを選択している。一度だけでなく、繰り返しc児とやりとりをしたことが、普段はなかなか思いを主張できずにいるc児が、思いを出すきっかけになっている。

【考察】

- ・ 活動の中で、**思いを出しやすそうなタイミングを見計らい**、援助をしたことで、c児は自分の思いを主張することができたと考える。
- ・ 幼児一人一人の表情や、言葉の裏にある本当の思いを教師が読み取り、その思いを言葉で表現できるよう、**思いを出しやすい雰囲気を作る**など援助をしていくことが、幼児が主張するきっかけになると考える。

イ 主張—2

【設定課題3】 活動の振り返り

幼児の姿	教師の動き・援助
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の話聞き、本時の活動を思い出している。(相談したことや、作業したことなど)</li> <li>・ 話すことを考える。</li> <li>・ 多くの幼児が手を挙げる。</li> <li>・ c児、教師の「座ったまま～」にうなずく。</li> <li>・ c児「目の色を決めのが大変だった。」</li> <li>・ 教師の発言にうなずく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トンボをグループの友達と相談しながら作ったことを、幼児に問い掛けながら思い出させる。「今日トンボを作って、楽しかったこと、頑張ったこと、少し大変だったこととかを話してもらいます。少し考えてね。」</li> <li>・ 少し間を置き、「話してくれる人はいますか。」と聞く。</li> <li>・ c児を指名する。 「立って話しますか。座ったままで話しますか。」と、c児に聞く。</li> <li>・ 「どういう風に大変でしたか。」</li> <li>・ 「そうですね。決めるのが大変だったのですよね。でも、みんなで一生懸命話し合ったのですよね。」</li> <li>・ 「c児さんは、体の色を決めたとき、初めは我慢して赤でいいって言ったけれど、自分で青がいいって言えて、体の色が青に決まったのですよね。そのときどういう風に思いましたか。」</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ c児「うれしかった。」</li> <li>・ e児、教師の発言にうなずく。</li> <li>・ e児、教師の問いかけに、少し考えて「ワー！」と叫ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「そうですね。自分で言えて、その色になってうれしかったですよね。」</li> <li>・ 「e児さんも、羽の素材を決めるときに、譲ってくれたのですよね。譲ってくれたとき、どんな気持ちでしたか。」</li> <li>・ 「『ワー！』と言いたいくらい我慢したのですね。自分の意見を聞いてもらったり、我慢したりしましたよね。」</li> </ul>
---	--

【分析①（幼児）】

- ・ c児は本時の活動の中で、自分なりに思いを主張し、その思いが実現した満足感を味わっている。そのことが、みんなの前で自分の思いを伝えるきっかけになっている。

【分析②（教師の援助）】

- ・ c児は、他児の意見（特に、「うれしかった。」などの内容）を聞くと、自分の素直な思いを伝えにくくなってしまうのではないかと考え、教師は1番に指名をしている。他児の思いを聞く前に話したことが、c児は自分の素直な思い引き出している。

【考察】

- ・ 自分の思いを明確にするため、**時間を保障し、思いをもてるまで待つ**ことが必要である。時間を保障することで、思いを自覚し、言葉にすることができると考える。
- ・ 幼児が自分の思いを主張するためには、集まるときの隊形や、指名する順番への配慮も必要であると考ええる。
- ・ 幼児が自分の思いを主張し、その思いが実現できた経験や、自分なりに調整をして、譲った経験を、具体的な言葉で振り返り、認めていくことで、その経験が価値あるものになっていくと考える。

ウ 調整

【設定課題1】材料（羽の素材）を決める

※①ポリエチレンシート ④ポケットファイル

幼児の姿	教師の動き・援助
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ b児「硬くていいんじゃない？」</li> <li>・ e児が一人で決めようとする。</li> <li>・ c児「硬いのを下にして、その上にどれかをはめて…」と小さい声でつぶやく。</li> <li>・ b児、e児の様子を見て「何でもいいよ。」</li> <li>・ d児「何でもいいじゃなくてさ、決めようよ。c児ちゃんは何がいい？」</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>• c児「どれでもいい。」</li> <li>• d児「何でもいいじゃなくてさ、決めようよ。」</li>   <li>• e児「これ！①に決まった！」</li>   <li>• b児、d児は④がいいと示す。</li> <li>• d児「c児ちゃんは？」と問い掛ける。</li> <li>• c児も同じく④がいいと指差す。</li>   <li>• e児は、①を棒状の体につけて羽に見立てる。「やっぱりこれがいいよ。ちょっとだけキラキラしてるじゃない。白くて羽みたいだから。」</li>   <li>• d児「こっちは絵を描いたときにきれい。塗ったら反対からも見えるよ。」</li>   <li>• e児「これ！」①を上げ、譲らない。</li>   <li>• c児「あのさ、①は引っかいたら線がついちゃう（から嫌だ）。」</li> <li>• e児「じゃあここに置くよ。」と言って強引に①にしようとする。</li> <li>• c児「①は線が見えちゃうでしょ。引っかいたからだよ。」</li> <li>• b児「ここ傷ついてるじゃない。」</li> <li>• e児「やっぱりこっち④にしてあげる。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 話し合いが進まない様子を見て、「決まったかな。」と問い掛ける。</li>   <li>• 「e児さんは①がいいのですね。他の3人はどうですか。」</li>   <li>• 「④なのですね。」①と④を残し、他の素材を片付ける。</li> <li>• e児に「どうしてこれがいいかお友達に言ってみたかな。お話ししてごらん。」</li>   <li>• 「だから①がいいのですね。」</li> <li>• 「e児さんが言っていることは分かりましたか。」とb児、c児、d児に確認し、e児に「他の人はどうして④がいいのいか聞いてみましょうね。」</li>   <li>• e児に「分かったかな。片方に描いたら裏からも見えるそうですよ。」</li>   <li>• e児に「他のお友達の顔みてごらん。不満そうですね。」</li>   <li>• 「e児さん、いいのですか。」</li> </ul>
--	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ c児「こっち①は線みえるじゃない。こっち④は透明だけど。」</li> <li>・ e児、うなずく。丸めた棒状のトンボの体を覗き込み、教師を見る。「見える、見える。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ c児に対しうなずく。</li> <li>・ e児に「我慢して、これでいいのですか。後悔しないですか。」</li> <li>・ 「私にはe児さんの不満そうな顔が見えますよ。」</li> <li>・ e児に「④に譲ってくれたのですね。偉かったですね。」</li> </ul>
--	--

#### 【分析①（幼児）】

- ・ e児は教師の援助により、友達が繰り返し④ポケットファイルを推す姿や、不満そうにしていることに少しずつ気が付いているが、すぐには受け入れられず自分の主張を通そうとしている。しかし自分が①ポリエチレンシートを触って傷が付いてしまったことで、友達の見実感を受け入れる必要を感じている。言葉では「いいよ」と言うが不満はあり、自分の気持ちを調整しようとしている葛藤が表情や態度に出ている。教師がc児に寄り添い、その気持ちを理解し代弁したことが、納得して次の活動に進むことにつながっている。
- ・ d児は、体の色を決める場面（主張—1）における教師とc児のやりとりから、c児にも自分の思いがあることに気が付いている。その経験が、c児に対して自分から声を掛け思いを聞き出す姿につながっている。

#### 【分析②（教師の援助）】

- ・ 自分一人で決めようとするe児に対して、**相手と話し合わせることを提案したり促したりする**ことで、みんなで話し合う場をつくっている。e児が相手の話を聞けるように、**相手の思いとの違いを明確にする**、**分かりやすい言葉で言い換える**援助をしている。その後もe児が相手の思いに向き合えない姿から、言葉だけではなく**相手の様子や思いを知らせる**援助も行い、相手の思いに気付いたり話を聞いたりできるように促している。
- ・ e児が譲ると言った**思いを再確認**している。e児の中で調整しようとしている姿を表情や態度から読み取り、気持ちの揺れを言葉にして受け止めることで**相手の気持ちを考えて自分の思いを抑えられたことを認め、励ます**援助をしている。

#### 【考察】

- ・ 分かりやすい言葉で言い換える援助や、相手の表情、態度に気付かせる援助を行ったことで、e児は相手の話を聞いたり思いに気付いたりすることができたと考えられる。
- ・ 解決に向けてe児が譲ったことでそのまま終わらせるのではなく、表情や態度から葛藤を受け止め気持ちを確かめる援助を行うことで、e児は分かってもらえたという満足感を得ることができたと考える。それによって納得して譲ることができ、次の活動へ進

むことができたと考える。

- ・ 主張－1 の場面で教師が行った「感じていることを引き出して思いを明確にする」という援助が、周囲の幼児のモデルになり、友達の思いに気付く・思いを考えるとこの姿につながっていると考える。

エ 折り合い

【設定課題2】トンボを作る（目の色決め、色塗り）

幼児の姿	教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ e 児が目を塗ろうとする。</li> <li>・ c 児「e 児ちゃんさ、・・・。」と e 児の様子を見ながら話し掛けるが黙り込む。</li> <li>・ c 児「やりたいけど、我慢するしかない。」</li> <li>・ c 児「やりたい。」</li> <li>・ d 児「d 児もやりたい。」</li> <li>・ c 児「順番にする。」</li> <li>・ b 児「少しずつにする。」</li> <li>・ e 児「じゃんけん。じゃんけんは？じゃんけんは？」</li> <li>・ e 児「んー、やっぱりじゃんけんにする。」</li> <li>・ c 児「さっきは e 児ちゃんが『目がいい』って言って、e 児ちゃんの言うとおりにしたじゃない。」</li> <li>・ e 児「やっぱり塗らない。さっき、『目から』にしてくれたから塗らないことにする。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「c 児さんはどうしたいのですか。やりたいのですか。」</li> <li>・ 「我慢するのですか。本当はどうしたいのですか。」</li> <li>・ 「c 児さんも本当はやりたいのですよね。d 児さんもやりたいですよね。みんながやりたいときはどうすればいいですか。」</li> <li>・ 「いろいろな意見が出ていますよ。順番にする、少しずつにする、じゃんけんにする。3 つ考えがありますね。みんなが納得して決めないといけませんね。」</li> <li>・ 「『じゃんけんはどう』って、友達に言ってごらん。」</li> <li>・ 「e 児さんは『塗らなくていいよ。』と言っているのかな。本当はやりたいのだけれど、さっきはお友達が譲ってくれたから、今度は我慢しようと思ったのですね。」</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ b児「でも本当はやりたい？」</li> <li>・ e児「うん。」うなずく。</li>   <li>・ d児「じゃあ順番にやろう。」</li> <li>・ c児「私もそう言ってたの。」と小声でつぶやく。</li> <li>・ d児「e児ちゃんから塗って。」</li> <li>・ b児「少しずつだよ。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「みんなで楽しく作るためにはどうすればよいでしょうね。」</li>   <li>・ 話し合いの様子を見守り、その場を離れる。</li>   <li>・ 順番で作業していることを確認し、「順番で塗ることにしたのですね。」と伝える。</li> </ul>
---	--

【分析①（幼児）】

- ・ c児は、e児が塗ろうとしているのを見て我慢しようとしている。しかし、教師に問われることで自分の思いを言うことができている。自分の思いを通そうとするe児に対し、前の場面で自分たちが譲ったことを伝え、気付いてもらおうとしている。
- ・ d児は、みんなが塗りがっている思いが分かり、教師が投げ掛けた「みんなで楽しく作るためにどうするか」に対し、順番にすることを提案する。最初は一人で塗ろうとしたe児が友達の意見を聞いて我慢して譲ろうとした気持ちも考え、e児から塗ることを提案している。
- ・ b児は、教師がe児の気持ちを代弁したことでe児の気持ちの動きに気が付き、「でも本当はやりたい？」と相手の気持ちを考える姿につながっている。
- ・ e児は、自分の思いだけで進めようとしていたが、c児の発言により前の場面で友達が譲ってくれたことを理解し、今回は自分が我慢して譲ろうとしている。

【分析②（教師の援助）】

- ・ 教師が話し合いの仲間に入り、モデルを示し、思いを出しやすい雰囲気を作ることでc児もやりたいと主張することができたと考える。それが実現できるようにみんなで話し合っしてほしいとの願いをもち、話し合えるよう投げ掛けている。
- ・ 話を整理し、e児に対して相手と話してみることを提案したり促したりする言葉を掛けている。e児が譲ろうとした場面で、e児の思いを言葉にして伝え、相手の思いをよく考えて受け入れることができたことを認める援助をしている。「みんなで楽しく作るためにはどうするか」と話し合うきっかけを示し幼児同士で話し合い、折り合いをつけられるように任せている。最終的に決まったことを言葉にして伝えることで、自分たちで話し合っ決めて決めたことを実感できるようにしている。

【考察】

- ・ 教師が話を聞くモデルを示したり、一人一人の思いに寄り添い言葉にして認めたりする援助をすることが、幼児自身が納得したり、周囲の幼児が互いの気持ちを考えたりす

る姿につながったと考える。

- ・ 幼児同士で決めたことを改めて言葉にして伝えることで、自分たちで話し合っ  
て決めたことを実感し、経験を価値付けることにつながったと考える。

## (5) 検証保育のまとめ

### ①「主張」のための教師の援助

- ・ 「主張」のための土台作り「思いをもつ」

幼児が自分の思いを相手に主張するためには、一人一人が、何について話しているかを共通理解していることが重要である。視覚的に示す、過去の経験を振り返りながらイメージがもてるようにする、話の内容を教師が整理するなどを行うことで、幼児が話し合いの内容を理解し、自分の思いをもつことができる。

- ・ 一人一人に対する幼児理解

それぞれの幼児に適した主張の場面を捉えることや、思いを引き出す手立てを選択するためには、幼児一人一人に対する幼児理解が重要である。幼児の本当の思いを読み取ったり、普段の様子や性格など幼児の実態を考慮したり、幼児理解を基に援助の方法を考える重要性を再確認した。

- ・ 実態に応じた「主張」の場面の選択、思いを引き出す言葉の選択

今回設定した3つの課題の中で、教師は幼児が主張しやすい場면을的確に捉えて選択し、思いを引き出す手立てをとっていた。すぐに主張することを求めるのではなく、幼児にとって無理なく思いを表せる場面を選び、引き出す手立てを考える重要性を感じた。

- ・ 幼児が思いを明確にするための時間の保障

幼児が自分の思いを整理し、自覚する時間を保障することが、主張をするために大切な援助であることを確認した。思いを自覚することが、自信をもって言葉で表す姿につながっていた。

### ②「調整」「折り合い」のための教師の援助

- ・ 相手の思いに気付かせる。

相手が話していることを分かりやすい言葉で言い換えたり、相手の表情や態度に注目させたりすることで、幼児が相手の話に耳を傾けたり、気持ちに気付いたりすることができていた。幼児が心身ともに聞く姿勢を整え、相手の思いに気付くことは、調整、折り合いへの第一歩である。

- ・ 幼児に寄り添い、感情を言葉にする。

自分の思いと相手の思いの両方を理解したとき、幼児は思いの違いの間で葛藤する。その気持ちの揺れを教師が捉え、寄り添い、感情を代弁して言葉にしていくことで、幼児は自分の気持ちを実感するとともに、「分かってもらえた」という満足感をもち、気持ちを調整したり、折り合いをつけたりすることにつながっていた。

### ③葛藤体験を乗り越えることを、遊びや生活の楽しさを味わうことにつなげるための教師の援助

- ・ 葛藤体験を乗り越えたことの自覚化

学級全体で活動の振り返りの場を設けることや、個々の幼児に対して、勇気を出して主



張したこと、相手を思いやって我慢したことなどを認め、葛藤体験を乗り越えたことを自覚させ、そのことが価値のあることだと実感できるような援助が重要である。そうすることで、これまで以上に自信をもって生活するようになったり、これまでと異なる人間関係が生まれたりなど、幼児の遊びや生活の変化につながっていく。

④幼児が遊びや生活の楽しさを味わうことを、「自信をもって自分の思いを伝えられること」につなげるための教師の援助

- ・ 個に応じた経験の積み重ね方を考える。適時性（タイミング）を見極める。

いつも遠慮して周りに気を遣っていたc児は、本時の活動の中で、自分の思いを主張し、その思いが実現した満足感を味わった。今までと違った感覚を味わい、楽しい気持ちでその後の活動を過ごしていた。教師は、そのようなc児の姿と日頃のc児の実態を考え併せ、振り返りの場で、もう一度c児が主張する場面を設定した。勇気を出して主張して味わった感覚を忘れないうちに、もう一度味わって、経験をより確かなものにしたいと考えたためである。

しかし、このような方法が他の幼児にも有効だとは限らない。曇り掛けるように同じような場面をつくられても、逆効果で後戻りしてしまう幼児もいるだろう。大切なのは、個に応じた経験の積み重ね方を考えることであり、適時性を見極めることである。

## 7 検証保育後の幼児の姿

### (1) 幼児の姿

検証保育後、Aグループの幼児には以下のような姿が見られた。

- ・ b児：グループ活動や、学級での活動時に、c児に対して、「c児ちゃんはどうしたい？」  
「みんな、c児ちゃんまだ言ってないよ。」などの声を掛ける姿が見られる。
- ・ c児：検証保育翌日にトンボが完成したAグループ。e児が一人でトンボを持ち、走り回っていた。すると、c児がe児の側に行き、「みんなで作ったんだよ。私たちだって持ちたい。」と自分から伝え、トンボを貸してもらった姿があった。また、劇遊びの取組では、初めは自信がなさそうだったが、徐々に自信をもって取り組むようになり、保護者に劇を見せた後には、「大きい声で言えないかなって思ったけど、大きい声で言えてうれしかった。」と満足そうに自分の思いを教師に話していた。
- ・ d児：幼児同士のトラブルで、その場の状況から、周りの幼児に責められていた友達を見て、「でもさ、〇〇ちゃんも、そういう風にされて嫌だったんだよ。」と、友達の思いを代弁する姿が見られた。
- ・ e児：検証保育翌日、トンボ製作の続きをしていたAグループ。羽の色塗りはどうするか相談していたときに、e児が友達のことを考え、「ここはc児ちゃん、ここはd児ちゃん、ここはb児ちゃん、ここはぼくが塗るのは？」と、2枚の羽根を4つのブロックに分けて塗ることを提案する姿が見られた。

### (2) 考察

- ・ b児：検証保育当日、普段はあまり自分の意見を言わないc児が、自分の意見を主張したことが、c児にも思いがあるという気付きにつながったと考えられる。
- ・ c児：検証保育当日、自分の思いを主張し、思いが実現したことで、翌日には、「自分もト

ンボを持ちたい」という思いを、教師が援助しなくても伝えることができた。また、生活の様々な場面で、少しずつ自信をもって取り組む姿が見られ始めている。

- ・ d児：以前から、自分の考えや意見ははっきり伝え、時には一方的に伝える姿も見られた d児だが、検証保育で c児にも思いがあることに気付き、c児の思いを考えながら製作を進める経験をした。その経験が、自分の思いを主張するだけでなく、相手の思いを考えながら発言したり、生活を進めようとしたりすることにつながったと考える。
- ・ e児：グループでの話し合いの中で、状況に合った提案をしている。検証保育では、じゃんけんなど、自分本位に活動を進めようとする姿が多く見られたが、自分が譲ったことでみんなが納得して作業を進められた経験をしたことで、このような提案が出たのではないかと考える。

## VI 研究のまとめ

- 葛藤体験の中では、相手と「折り合い」をつけるために、相手に対して自分の思いを「主張」したり、相手の思いを知って自分の中で思いを「調整」したりすることを、互いが繰り返しているということが分かり、図1のような「主張」「調整」「折り合い」の3点の関係性が明らかになった。
- 葛藤体験を乗り越える過程にある「主張」「調整」「折り合い」の3点において、幼児に必要な経験とその過程、教師の援助を明らかにすることで、現在の幼児の姿から、次にどのような経験が必要なのか、次の過程につなげるためにはどのような援助が必要なのかということについて明確にすることができた。
- 幼児が葛藤体験を乗り越えたことを自覚し、そのことが価値のあることだと実感できるような援助が重要である。「折り合い」をつけた後、それまでの自分や生活と違っていることを感じられるような言葉を掛けたり、幼児の言動を具体的に言語化して振り返る場を設けたりすることが、その後の遊びや生活の楽しさを味わうことにつながると考えられる。
- 幼児が葛藤体験を乗り越え、遊びや生活の楽しさを味わうことを、「自信をもって思いを伝えられること」につなげるためには、幼児理解に基づいた個に応じた指導が必要不可欠である。幼児の経験の積み重ね方は様々で、適時性があることを踏まえ、適切な援助を行っていくことが必要である。

## VII 今後の課題

- 様々な場面や時期での検証を行うことで、経験の積み重ねや援助の方法についてさらに追究していくことが必要である。
- 図2において、「幼児の姿」や「次の過程につながる教師の援助」については、幼児一人一人の特性は異なることから、その経過はこの通りではないことも考えられる。幼児の姿は多様であることを踏まえ、さらに一人一人に合わせて具体化する必要がある。
- 幼児が葛藤体験を乗り越え、遊びや生活の楽しさを味わうことを、「自信をもって思いを伝えられること」につなげるための援助については、さらに深く追究することが必要である。

平成25年度 教育研究員名簿

幼稚園

地区	学校名	職名	氏名
江東区	豊洲幼稚園	教諭	◎富山 由加利
品川区	御殿山幼稚園	教諭	松浦 紗央里
目黒区	みどりがおかこども園	教諭	久家 さや加
荒川区	尾久幼稚園	教諭	近藤 央菜
荒川区	尾久第二幼稚園	教諭	桐谷 昌代

◎ 世話人

[担当] 東京都教職員研修センター 研修部 授業力向上課  
指導主事 貞方 功太郎

平成25年度  
教育研究員研究報告書

幼稚園

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕  
平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 昭和商事株式会社